

令和4年度 はあと平針事業報告

1. 事業概要

障害者総合支援法のもと、利用者に対して通所によるサービス提供を原則とし、個々のニーズや障がい特性に応じた個別支援プログラムを作成し、各種余暇活動や生産活動の取り組みを通じ日々の生活リズムの安定を図り、心身の健康を維持し、生きがいを見つけていけるような支援を目指した。感染症対策としては「感染対策指針」、災害対策としては「自然災害発生時における業務継続計画」を新たに策定し、利用者が安全に、安心して活動できるように対処した。

2. 事業所運営

1) 施設整備・設備

- ・エアコンの薬品洗浄をした。(16台分)

2) 職員構成

(令和5年3月31日 現在)

所長 (みーる平針管理者兼務)	サービス管理責任者	生活支援員	事務員	嘱託医	看護師	計
(1)	1	5 (6)	1	(1)	(1)	7 (9)

※ () 内は、非常勤職員の外数である。

3) 会議

会議名	内容	運営方法	構成
法人運営会議	・各事業所の情報の共有化と、法人運営課題についての議論を目的とした会議を行った。	毎月1回	理事長 常務理事 各事業所の管理者
職員会議	・次月の業務及び支援・運営全般について連絡協議した。	毎月1回	全職員
支援会議	・支援全般に関することについて協議した。	毎年3月	支援員
ケース会議	・利用者の支援上の諸問題（緊急対応）に対する検討を行った。	毎日の打ち合わせ時に必要に応じ行った。	全職員
	・半期のモニタリングを行った。 ・半期のモニタリングを行った。	毎年8月 毎年2月	

虐待防止及び身体拘束等適正化委員会 (虐待防止及び身体拘束等適正化研修)	・身体拘束等の適正化のルールについて確認した。 ・虐待防止職員セルフチェックを実施した。 (自閉症の方のパニックへの対応について学び、協議した。)	毎年6月 (11月)	管理者 サビ管 支援員1名 (全職員)
ハラスメント防止委員会	・ハラスメントの概要やセルフチェックについて確認した。	毎年7月	管理者 サビ管 支援員1名
感染対策会議	・BCP(業務継続計画)について確認した。	毎年6月	全職員

4) 職員研修

直接(間接)処遇職員に対し、それぞれの職務遂行に必要な知識・技術を習得するために、福祉関係団体の主催する研修に積極的に参加した。

「福祉関係団体主催の研修参加実績」については、下記の通りである。

月	参加者	研修名	主催	場所
5	支援員	強度行動障害者支援者養成研修(基礎)	社会福祉法人よつ葉の会	西区
7	支援員	サービス管理責任者更新研修	愛知県	Zoom
	所長	虐待防止研修	名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	Zoom
	支援員	普通救命講習	名古屋市消防局	昭和区
	サビ管	全国知的障害関係施設長等会議	日本知的障害者福祉協会	Zoom
8	支援員	精神障害のある方へのかかわり方を考えよう	天白区自立支援協議会	Zoom
	支援員	強度行動障害者支援者養成研修(実践)	社会福祉法人よつ葉の会	西区
	非常勤職員2名	アンガーマネジメント研修&アンコンシヤスバイアスセミナー	愛知県知的障害者福祉協会	Zoom
	所長	ハラスメント防止研修	ジェイアイシーセントラル株式会社	Zoom
	サビ管	人材育成研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
10	サビ管	強度行動障害者支援者養成研修(実践)	名古屋市	北区
	支援員	感染症対策研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
11	支援員	地域共生社会研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	事務員	労務管理研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom

12	支援員	福祉現場と専門職養成をつなぐフォーラム愛知	日本福祉大学	Zoom
	事務員	予算・決算対策研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
1	支援員	メンタルヘルス研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	支援員	高齢知的障害者への支援に関する研修会	愛知県知的障害者福祉協会	Zoom
	支援員	防災研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	サビ管	第2回福祉サービス苦情相談事業研修会	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
2	支援員	SDGS研修	名古屋市社会福祉協議会	Zoom
	支援員	初任者研修	愛知県知的障害者福祉協会	Zoom
	支援員	サービス管理責任者更新研修	愛知県社会福祉協議会	Zoom

5) 年間行事

実施日	行事名	内容
4月4日(月)	花見	はあと平針の玄関前にて行った。外でゆったりとすごしながら、和菓子やお菓子を食べ、花見の雰囲気を楽しんだ(参加利用者34名)
6月28日(火)	手作り体験 (小グループ社会見学代替行事)	お気に入りの写真を選び、転写用紙に印刷し、アイロンを使いトートバッグに貼り付ける体験会を行った。 昼食は豪華なお弁当を提供し、おやつにはケーキを提供した。 (参加利用者33名)
7月12日(火)	夏のお楽しみ会	夏を感じられるよう、昼食にそうめんを食べた。午後にはスイカ割りを行い、おやつとして提供した。 (参加利用者31名)
8月	平針福祉会夏祭り	新型コロナウイルス感染症を考慮し中止。
10月8日(土) 10月22日(土)	日帰りバス旅行	3年ぶりの外出ということでレンタカーを借りて移動した。貸し切りのバーベキュー場にて肉や野菜、焼きそば、アイスクリームを食べた。食後には近くを散策し、自然を感じることができた。(参加利用者28名)

5月	<ul style="list-style-type: none"> 防災避難訓練 (地震想定) 	<ul style="list-style-type: none"> 午前の休憩時間帯に震度6強規模の地震が発生したと想定 「利用者の身を守る」を最優先とし、作業室毎に対応行動訓練(対応行動援助)を実施、職員の任務対応行動について確認 <利用者及び全職員を対象>
7月	<ul style="list-style-type: none"> 防火避難訓練 (火災想定) 自主点検 	<ul style="list-style-type: none"> 午前の活動時間帯に出火(1階湯沸し室)を想定とした防火対応避難訓練(事前周知あり) 通報(動作のみ)・伝達・初期消火・避難誘導・情報収集等の訓練を実施 <利用者及び全職員を対象> 自主点検表に基づき、係にて実施。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 建物自主点検 (敷地内を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 建物に異常がないか確認を行った。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 防災避難訓練 (地震想定) 	<ul style="list-style-type: none"> 午後の活動時間帯に震度6強規模の地震が発生したと想定 「利用者の身を守る」を最優先とし、作業室毎に対応行動訓練(対応行動援助)を実施、職員の任務対応行動について確認 <利用者及び全職員を対象>
	<ul style="list-style-type: none"> 非常持ち出し訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員は、重要なデータの持ち出し訓練を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋市健康福祉局と連携し、伝達訓練を行った。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策会議 	<ul style="list-style-type: none"> 防災に関わる事項について確認を行った。災害時の事業所の対応について話し合い。確認を行なった。<職員を対象>
	<ul style="list-style-type: none"> 非常食の点検・補充 消防用設備点検 	<ul style="list-style-type: none"> 係にて点検・補充等を実施 新日本コーポレーション(株)による定期(機器)点検
11月	<ul style="list-style-type: none"> 防火総合訓練 消火器取り扱い訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 「午後の活動時間帯の出火(1階湯沸し室)を想定とした防火対応避難訓練(事前周知あり)」 通報(動作のみ)・伝達・初期消火・避難誘導・情報収集等の訓練を実施。天白消防署職員立ち合い。 雨天のため、消火器訓練は中止し、防災啓発のDVDを鑑賞した。
1月	<ul style="list-style-type: none"> 防災避難訓練 (火災想定) 	<ul style="list-style-type: none"> 午後の活動時間帯に出火(1階湯沸し室)を想定とした防火対応避難訓練(事前周知無し) 通報(動作のみ)・伝達・初期消火・避難誘導・情報収集等の訓練を実施 <利用者及び全職員を対象>
2月	<ul style="list-style-type: none"> 自主点検 	<ul style="list-style-type: none"> 自主点検表に基づき、係にて実施

7) 健康管理

利用者の健康保持に留意し、月に一度、看護師による血圧測定・体重測定を実施した。また、年に2回簡易尿検査(6月・11月)を行った。嘱託医(和合病院)による年2回の内科検診は、新型コロナウイルス感染症を考慮して6月は中止したが、2月には嘱託医来所により行った。

3. 支援概要

利用者の人権と個性を尊重し、各利用者の障がい程度や特性に応じた支援および援助を行うことで、地域社会における社会的自立を目指した。そのため利用者のニーズを受けて支援計画(個別支援プログラム)を作成し、生活習慣支援、日中活動支援という事業所の持つ支援機能を積極的に活用した。

生活習慣支援においては、様々な活動に参加しながら、利用者の持つADL(日常生活動作)能力の維持・向上を目指した。また、個々の心身の状況に応じた生活リズムを確保することで、事業所屋内外での活動にやりがいと楽しみを持つことができ、利用者一人ひとりがより落ち着いた状態で過ごせるような場面が増えた。

日中活動支援においては、生産活動面で更なる環境設定の充実を図ったことで、利用者の作業技術が向上し、多くの作業種において仕上げられる量が増えた。

1) 日課

8:30	9:00～ 9:30	9:30～ 10:30	10:45～ 12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:15	14:30～ 15:30	15:30～ 16:00
職員朝礼	朝のラジオ体操会	活動①(休憩)	活動②	昼食(休憩)	活動③(休憩)	活動④	清掃の会

2) 各種活動支援

以下に挙げる各種活動を利用者個人が選択し、週間プログラムとして実施することで、一人ひとりの趣味趣向を確認し、持っている社会生活能力等を引き出すことをめざした。様々な活動を通じて、多角的に利用者を見つめることで多くの発見があった。それを踏まえて情報交換することで、各家庭との連携もより密に取ることができた。

○音楽活動

カラオケ・音楽鑑賞を行った。

音楽に合わせて歌を歌ったり、手拍子でリズムをとったりして、楽しんだ。曲は

様々なジャンルや年代から選び、利用者個人が好きな音楽を見つけ、それぞれの形で楽しさを表現しながら時間を過ごすことができた。

○創作活動

自由画、折り紙、塗り絵、パズル、ブロック、学習プリントなどから、一人ひとり好きなものを選んでもらって取り組んだ。それぞれが好きなものを好きなペースで取り組むことで、ゆったりとした雰囲気でも活動をおこなうことができていた。

また、今年度も外部講師を招いての「パンフラワー」に取り組んだ。概ね週に1回のペースで、完成まで5~6回程度の回数を重ねて個々に1つの作品を作り上げ、昨年度同様に8つの作品を作成した。

○園芸活動

季節の野菜や花を植えて、日々の水やり、土の入れ替え、追肥、収穫（試食）などを行った。また、花の寄せ植えも行った。活動を通して植物を育てることへの興味が湧き、楽しみにしている様子も見られた。

○クッキング活動

手袋やマスクを着用したうえで、それぞれが取り組みたい調理工程に参加してもらった。調理中だけでなく食材やお皿の準備、洗い物にも率先して取り組む姿が見られた。調理後は皆で食事を楽しみ、味の感想や次は何を作りたいかなど話し合う時間を設けた。

○ドライブ活動

公用車を使用し、1時間程度の時間をかけていろいろな場所の風景を見に行くかたちで出かけた。行先は利用者の希望を取り入れ、毎回コースを変えながら取り組んだ。道中では会話や音楽、景色を楽しみながら、のんびりと過ごせている様子が伺えた。

○ウォーキング活動

健康維持の為、小グループによるウォーキングを行った。利用者のペースに合わせて歩行を行った。周りの状況を確認し、トラブルにならないよう取り組んだ。夏季は、お茶を用意することで脱水症状にならないように配慮した。各利用者楽しんでウォーキングに参加することができていた。

○軽スポーツ活動

ダンス・ボール遊び・ストレッチなど楽しく簡単に体を動かすことを中心に取り組んだ。グループによっては公用車を利用し、近くの公園に行き、サッカーやウォーキングなど行い、活動に飽きないよう工夫をした。今年度も引き続き、外部講師を月2回招いて、ストレッチなどを行った。

運動を楽しめるように各利用者のペースや能力に合わせて、取り組む内容を工夫した。活動の際に丁寧に説明を行うことで、活動への理解が深まるよう努めた。

○生産活動

従来の生産性重視の作業から機能訓練等に視点を移した作業にすることを目的としている。その上で個別支援計画に反映させ、利用者自身が積極的に取り組めるよう支援した。

具体的には、作業の分析と作業工程の見直しを常に行いながら、利用者の作業適性に応じた作業種を提供し、更により作業しやすい環境設定に努め、作業能力の維持・向上をめざした。達成感を感じてもらうことで、働くことへの意欲も高めることができた。

※ 平均工賃・・・1, 165円/月（前年度 2, 035円/月）

・ガス部品組付け作業

(株) エフワイ成型より受注してきた、シャフトの金具付け、バネ付け点検、箱詰め作業を中心に取り組んだ。受注量は週に2,000~5,000個程度であった。週により作業量の増減はあったが、年間を通して安定した作業量を確保できた。

・ゴミ袋セット（粗品）作り作業

区役所や各種団体（学区の連絡協議会など）から注文をいただいた。受注量は昨年度よりやや少なかったが、安定して受注をいただいた。利用者はゴミ袋を折り、束ねる工程、「クリスタルパック」への袋入れ工程等に参加した。また、利用者の描いた絵をラベルに使用した玄関無人販売用のセットも作成し、販売形態の拡充を図った。

・自動車部品作業

ヤマテックよりプラスチックやミニリール、安全ピンなどの作業を受注した。コロナの影響も少なく安定した量の受注があった。毎日の納品と受注があり、利用者・支援員で取り組むことで多くの人が関わることができた。

作業種や作業量を先方と調整を行いながら、利用者への定着を図った。取引先との連絡・調整は密に行うようにした。

○その他

毎月の工賃支給日の午後で購入したお菓子・ジュース等を全員で飲食しながら、日々の労をねぎらうティータイムを行った。会の準備・片付けは、利用者も交えながら行った。8月にかき氷会、11月に焼き芋会、3月には1年間を労って、一年おつかれさまでした会を開き、日々の活動参加意欲の更なる向上にもつなげていくことができた。

4. その他の諸活動について

1) 事業所体験・相談援助実習・教育実習・施設見学の受け入れ

① 事業所体験実習

在宅または就学中の障がい者を対象に、生活介護事業所での体験を通じて学校卒業後の日中の過ごし方について、体験する機会を提供した。実習期間を2日～5日に設定し、より正確な実習報告書を作成することで、今後の日中生活支援の参考資料とした。

天白養護学校	2名	男性 2名	女性 0名
--------	----	-------	-------

② 相談援助実習

大学や専門学校等で「社会福祉士」の資格取得のために、ソーシャルワークの価値・知識・技術について、学生自身が、講義やスクーリング学習を統合化し、実践力を身につける貴重な機会として、現場実習を行った。

日本福祉大学中央福祉専門学校	2名	相談援助実習
日本福祉大学	3名	ソーシャルワーク実習

③ 教育実習

愛知教育大学の教員免許特例法による介護等体験や平針中学校の生涯学習教育等については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和4年度においても実施されなかった。

④ 施設見学

障がい者本人をはじめ、当事業所を見学希望される方を積極的に受け入れた。限られた時間ながらも、地域の様々な立場の人たちが障がい者福祉の分野に関心を持ち、地域社会における施設の役割を理解いただく機会を提供できた。

また、5月に天白養護学校の進路説明会に参加し、事業所の紹介を行った。

(障がい者本人)

今年度なし	0名	男性 0名	女性 0名
-------	----	-------	-------

(保護者)

天白養護学校	1名	男性 0名	女性 1名
--------	----	-------	-------

2) ボランティアの受け入れ

利用者の幅広い対人関係の育成と、余暇・生産活動の充実をねらいとしたボランティアの要請及び受け入れを積極的におこなった。今年度は社会福祉法人中部善意銀行による「夏季高校生ボランティア活動」を受け入れた。また、相談援助実習を行った複数の実習生が事業所内行事や日常の活動に参加した。

夏季高校生ボランティア活動	1名	日常生活支援の手伝い
事業所内行事および日常活動	9名	日帰りバス旅行（2名） デイキャンプ（1名） 交流フェスティバル（1名） 梅見（代替行事）（2名） 日常活動の支援（3名）

3) 広報活動

法人ホームページや、生活介護事業所の紹介パンフレットの作成を通じて、地域社会に広く当事業所の理念を伝えていくことをめざした。また、ふれ愛ネット天白や天白区障害者自立支援連絡協議会等、地域住民や福祉関連団体との交流の場にも積極的に参加し、地域におけるネットワーク作りに取り組み、更に交流の輪を広げることができた。

また、季刊報「はあと通信」を年4回発刊し、利用者をはじめとして、当事業所と協力関係にある学校、福祉事業所、作業関連の事業所などに配布し、広報活動を推し進めた。生活介護事業所としての取り組み、行事・活動内容を中心に構成し、わかりやすい紙面作りに努めた。また、利用者の健康管理に関する事や防災関連の情報提供の場としても機能させるようにした。

5. 利用者状況

1) 入退所（定員 40 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者数 (月末)	36	36	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
利用実績	30.6	30.6	30.7	28.7	21.8	28.6	29.3	29.2	29.0	29.8	29.8	30.3

* 利用実績の年間平均出席人数は、29.0名である。

* 開所日数：244日 利用率：82.2%である。

* 利用実績、年間平均出席人数及び利用率は小数点第2位以下切り上げ。

2) 年齢別

(令和5年3月31日現在)

年齢 性別	~20	21~ 25	26~ 30	31~ 35	36~ 40	41~ 45	46~ 50	51~	計	平均年齢
男性	3	4	1	1	6	5	3	2	25	37.0
女性	0	3	2	0	1	0	1	3	10	42.6
計	3	7	3	1	7	5	4	5	35	39.8

* 最高年齢は82歳(女性)、最低年齢は20歳(男性)である。

3) 障がい別 ※ 35名中、重複障がい者は27名。

(令和5年3月31日現在)

障がい 性別	知的障がい	ダウン症	自閉症	てんかん	その他
男性	25	2	14	6	2
女性	10	0	2	2	2
計	35	2	16	8	4

4) 通所期間別

(令和5年3月31日現在)

期間 性別	1年未満	1~3年 未満	3~5年 未満	5~7年 未満	7~10年 未満	10年以上	計
男性	0	3	4	2	4	12	25
女性	0	0	0	4	3	3	10
計	0	3	4	6	7	15	35

※入所平均期間は12.8年、最高期間は30年である。

5) 障害支援区分別

(令和5年3月31日現在)

区分 性別	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし	計
男性	0	2	7	7	9	0	25
女性	0	2	3	4	1	0	10
計	0	4	10	11	10	0	35